



空港を楽しもう！

『最高の空港の歩き方』（ポプラ社）の著者で、世界中の空港を訪れ、空港自体を楽しんでいる空港アナリスト・齊藤成人さんと一緒に大阪国際空港を歩き、その魅力について語っていただきました。

空 港エンタテインメント時代

もともと空港は、飛行機を利用する際の「乗降場所」にすぎませんでした。ところが、最近では、買い物、グルメ、はたまたお風呂まで、空港ターミナルの中に楽しい場所が増えてきています。まさに、空港自体を楽しむ「空港エンタテインメント時代」が始まっていると言えるでしょう。

これは飛行機を利用する人が増え、空港がもっと楽しく、そして便利になってほしいというニーズが高まってきたことが背景にあります。

2 2020年に向けて進化する大阪国際空港

空港エンタテインメント時代にあって、大阪国際空港も例外ではありません。カフェから家具店まで数多くの店が空港内にできました。何より平成30年（2018年）の中央エリアのリニューアル先行オープンで、子ども連れにやさしい空港になったという印象です。展望デッキやカフェが整備され、多くのベビーカーを押した親子連れの姿を見かけるようになりました。

現在、2020年夏のグランドオープンに向けて改修工事をしていくところですが、いま以上にエンタメ性が増した空港になるのだからなと思います。ただ進化しても、いまのアナログの案内表示板（通称バタバタ）だけは無くさないでほしいですね。レトロ感があって、おもしろいですから。



北ターミナルJAL(日本航空)側の保安検査場入口の反転フラップ式案内表示機。開発した会社の名前から「ソラー式」、表示がバタバタと音を立てて変わることから「バタバタ式」とも呼ばれます。近年はデジタル式への移行が進んでいるため、貴重な存在となっています。



空 港に歩いて行ってみよう

さいとうなるひと
空港アナリスト 齊藤成人さん
Profile

金融機関で空港や観光など運輸業界を長く担当。空港ファンとして20年以上にわたり世界中の空港を見て回る。訪れた空港は200か所以上。著書のほか雑誌等で空港に関する執筆多数。

空港の建物の周りも、大阪国際空港は楽しめます。国内でこれほど発着頻度が高く、特に夕方から夜はおよそ3分に1機着陸します。飛行機を真下から撮影できる空港はありません。日本の飛行機撮影スポットである千里川土手は、近くにコインパーキングもできて、ますます行きやすくなりました。

私がおすすめるするのは、大阪国際空港に歩いて行ってみよう、ということ。たいていの人は「空港まで徒歩で来ました」と言っと驚きます。空港は人里離れた場所にあるというのが相場ですから、リムジンバスや鉄道で行くのが当たり前だと思っっているんですね。大阪国際空港は、阪急宝塚線蛸池駅から1kmあまり、ぶらぶらと空港まで歩いて行けば、それだけでレアな旅になります。大阪国際空港は歩いてよし、着いてから中でお茶をしてよし、そして、飛行機を撮影してよし、な空港ですよ。